

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和3年12月10日

施設名	高知城歴史博物館	所管課	文化生活スポーツ部文化振興課
-----	----------	-----	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)土佐山内記念財団	指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日
施設所在地	高知市追手筋二丁目7番5号		
事業内容	旧土佐藩主山内家に伝来した山内家資料を核として、近世から近代までに至る高知の歴史文化に関する資料等を保存し、調査研究し、展示し、及び教育普及に活用することにより、県民文化の振興に寄与するとともに、県内の文化施設及び地域と連携し、歴史及び文化による交流を支援することにより、地域振興及び観光振興に寄与する。		
施設内容	<建物> 延床面積6220.56㎡ SRC造地上3階建 <土地> 3,983.4㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、資料閲覧室、ホール、和室、実習室、喫茶室、収蔵庫、燻蒸室、研究室など <開館時間> 午前9時～午後6時(日曜日は午前8時～午後6時) <休館日> 12月27日～12月31日 <主な料金> 常設展 500円 企画展 700円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 ホール 27,580円 実習室 17,570円 和室 20,720円		
職員体制	常勤職員:14人 契約職員:12人 臨時職員:1人 合計:27人		

※職員数は令和2年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)
収入	県支出金	209,244	198,296	269,285
	事業収入	31,306	11,253	36,135
	その他	43,892	44,031	
	収入計(a)	284,442	253,580	305,420
支出	事業費	262,455	253,580	305,420
	(うち人件費)	(134,517)	(135,367)	(149,156)
	その他	21,987		
	支出計(b)	284,442	253,580	305,420
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

		令和元年度(実績)		令和2年度(実績)		前年度比
		人数	人数	人数	人数	
① 年間利用者数 合計 (単位:人)	常設展	7,839人	常設展	21,815人	+ 13,976人	
	企画展	66,674人	企画展	5,941人	- 60,733人	
	合計	74,513人	合計	27,756人	- 46,757人	
	<利用実績> ・コロナウイルス感染症の影響や感染拡大防止のための休館などもあり、観覧者目標を下回った(目標人数:106,000人、達成率:約26.2%)。					

<p>② 利用者意見等の反映</p>	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期:年間 ・方法:館内の数か所にアンケートボックスを設置 ・回答数:213件 ・調査結果公表:公表せず
	<p>○ 利用者意見等を踏まえた対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展望ロビーで写真が撮れないのは残念 →来館者にわかりやすいよう「撮影可」の掲示をし直した ・もう少し館内を暖めてはどうか →ブランケットを準備し、貸出可能と掲示をした ・告知物を貼るスタンドが館内の雰囲気合わない →掲示スタンドの色味や大きさ・形を変更した ・3階キャプションの文字が小さい →通史展示室は文字サイズをポイントアップ、企画展等も都度改善継続
	<p>○ その他</p>
<p>③ その他特記事項</p>	

山内家資料等を適切に管理し、調査研究に基づいた高知の歴史や文化の魅力を広く伝え、かつ立地を活かし地域振興、観光振興にも寄与する

要求水準—収集・保存

山内家資料及び別途定める収集方針に基づき収集した高知県の歴史・文化に関する資料を適切に保存する

評価項目

- (1) 山内家資料を核として、近世から近代に至る高知の歴史を特色づける資料を適宜収集する
- (2) 資料を毀損、滅失することなく、開館までに高知城歴史博物館に移転、配架し、公開承認施設の取得に向けた環境整備、劣化防止等の処置を適切に行う
- (3) 資料保存修復に関する年次計画を策定し、それに基づき着実に資料の修復を進める
- (4) 資料相談窓口を設けるなど地域における資料保存活動への積極的な協力をを行い、年1回以上の出張相談を実施する

状況説明

- (1) 個人所蔵者より寄贈7件 1,050点、寄託5件 17点の申し出を受け、資料リストおよび概要書の作成を行った。
また今後資料の寄贈・寄託を考える所有者とも協議を進め、資料調査を行うなど収集に向けた準備を行った。
 - ＜主な受入資料＞
 - 竹村家資料(寄贈) 489点(佐川竹村家伝来産業・商業関係資料)
 - 山脇家資料(寄贈) 554点(土佐古代塗関係資料)
- (2) 保存環境維持と展示公開の両立につとめ、公開承認施設の取得要件を満たす環境データの蓄積を進めた。
 - ア 収蔵環境の調査と環境整備
 - ・収蔵庫内の温湿度・空気環境調査・害虫のモニタリング調査を定期的に行った。
 - ・収蔵庫および1階一時保管庫等を対象に殺虫・防カビを目的とする燻蒸を1回実施したほか、新規受入資料に対しては低酸素処理による殺虫処理を行った。
 - イ 公開承認施設の取得に向けた環境整備
 - ・公開承認施設の取得に必要な環境水準を維持するため、各種調査データの分析に基づいて適宜改善を行った。
 - ・展示室内および展示ケース内の温湿度・空気環境測定や照度調査を行い、資料に合わせた公開日数を設定することで、資料の展示と保存を両立した。
- (3) 山内家資料のうち、特に展示活用が期待される美術工芸品 13 件の修理を行った。
 - 【能面 12 件】「白色尉」「弱法師」「邯鄲男」ほか
 - 【甲冑 1 件】「茶糸威二枚胴具足」
 - ・長期計画策定のため、書蹟・絵画類計 42 件の修理設計の作成を行った。
- (4) その他
 - ア 保存協力
 - 電話・来館による個人所蔵資料に関する保存相談へ対応したほか、県内文化施設からの協力要請に保存担当学芸員等が対応した。
 - ・四万十市立郷土博物館展示ケース等の展示環境への調査・助言
 - ・土佐市複合文化施設つないで収蔵庫等の収蔵環境への調査・助言
 - ・本山町立大原富枝文学館収蔵庫等の収蔵環境への助言
 - など個人・機関からの相談 合計 11 件
 - イ 修繕室の運用
 - ・館職員による収蔵庫および展示室の環境調査や受入資料のクリーニングを行った。
 - ・山内家資料、及び寄贈資料の展示促進を図るため、資料が展示に耐えられるよう職員による簡易修理を行った。(合計9点)

ウ 保存説明会

- ・他機関からの視察受入を積極的に行う等、博物館機能に関する情報発信を行った。
- ・県民を対象とした「資料整理保存講習会」、「山内家資料保存修理説明会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・資料の寄贈・寄託の実績があり、展示活用が期待される美術工芸品の修理も実施している。・保存環境維持と展示公開の両立に努めており、公開承認施設の取得要件を満たす環境データの蓄積を進め、公開承認施設となるための適切な整備が評価できる。・資料保存修復に関し、蓄積した経験を同様の課題を抱える他機関へ還元できたと認められる。

要求水準－調査・研究

資料の調査研究を進め、その成果を広く公開する

評価項目

- (1) 資料調査成果の公開計画を策定し、それに基づき資料目録(データベース公開を含む)、展示等、多様な手段により広く全国に発信する
- (2) 日本の近世史研究の拠点として認識されることを目指し、研究者、専門家との協働を含め、資料の調査、研究を推進する。調査研究の成果については、毎年研究紀要等の刊行物により公表し、歴史や美術に関する学会、研究会等を誘致するための具体的な活動を行う
- (3) 調査研究の成果は、上のほか展示、講演、講座等、多様な手段により公開し、これに係る図録、小冊子等の刊行物については年2冊以上作成する
- (4) 山内家資料の基礎データの整理等により、国の重要文化財指定に向けた協力を行う

状況説明

- (1) 資料調査成果の情報発信を実施
 - ア 閲覧室の運用
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から利用を予約制に変更し、研究者等による古文書閲覧のほか、県民や一般市民からの先祖調べや歴史的な質問に対し回答・調査協力を行った。
 - ・閲覧室利用者数 382 件(うち古文書原本閲覧申請 10 件、写真帳・閉架図書の閲覧申請 77 件)
 - ・リファレンス対応 197 件(電話・手紙等による対応も含む)
 - イ データベースの公開・充実
 - ・書庫の整理作業を進め、参考図書の登録・配架基準を定めてデータベースへ入力した。
 - ・過去に調査した調査カードの入力作業を進め、情報の充実をはかった。
 - ・年譜類の索引データベース公開に向け、出納用情報の追加を行った。
 - ウ 情報発信
 - ・高知県立坂本龍馬記念館特別展「薩摩と土佐一雄藩がたどった近代化への道」への13代藩主豊熙夫人関係資料(8点)の貸し出しを含む、計3件の展覧会に対し資料貸出を行った。
 - ・出版物やテレビでの掲載のほか、学習教材や展示パネル等での利用を目的とした資料画像貸出に対応し(55件)、収蔵資料の公開・情報発信を進めた。特に、デアゴスティーニ・ジャパン発刊の『週刊日本刀』に収蔵品が掲載されるにあたっては、紹介頁の校正作業にも協力した。
 - エ 古文書等の副本作成
 - ・過去にマイクロ撮影済みの資料のうち、公開頻度の高い年譜類から「道番庄屋根居」をはじめ10件のデジタルデータ化を進めた。
- (2) 歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究活動を行った。
 - ア 調査研究活動
 - ・館外所在山内家・土佐藩関係資料の調査(県内外所在資料4件)
 - イ 館外との協働
 - ・「高知県の学校資料を考える会」とともに、依頼を受けた学校の資料調査および整理に協力した。
 - ・高知コア研究所を中心とする山内家墓所石材調査プロジェクトチームへの調査協力を行った。
 - ・高知大学との合同による土佐神社の御蔵整理作業を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学生との現地での調査は中止し、館内においてデータ入力作業を行った。
 - ウ 学会・研究会活動
 - ・文化財保存修復学会熊本大会でのポスター発表
 - ・民衆思想研究会の高知大会開催に協力(※新型コロナウイルス感染拡大防止のため研究会は中止となり、令和3年に開催予定)
 - ・令和3年度開催予定の全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の高知大会の準備協議に協力
 - ・令和4年度開催予定の日本博物館協会全国大会の高知大会の準備協議に協力
 - エ 刊行物による公表
 - 「家綱政権期の幕府・土佐藩関係と「取次」—洪水被害をめぐる幕藩交渉から—」、「山一商会事件の概要と影響—旧藩主家における意思決定の変容—」の2本を掲載した研究紀要3号を刊行した。
- (3) 学芸員がそれぞれの調査研究成果に基づき、多様な展示・講座・講演等を行う準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止せざるを得ない状況が続いた。そのため、SNSやYouTubeなどの媒体を用いて、資料紹介や研究成果の発表を行った(実施・開催した展示・講座・講

演等については、展示公開・教育普及の項目に記載）。

企画展「よみがえる山内家資料の美と歴史」においては、小冊子を発刊した。

- (4) 令和2年8月4日～7日、10月6日～7日、11月24日～27日の3回にわたり文化庁および当館学芸員による資料調査(美術工芸品のうち書蹟・甲冑・染織・漆芸、古文書資料のうち絵図類)を実施し、最終日には今後の調査計画について協議を行った。また、当日記録した調書の入力および当館調査カードとの統合作業や、文化庁からの指示に基づき資料の追加調査を当館職員が行った。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・研究者等による古文書閲覧のほか、県民からの問い合わせにも数多く対応しており、広く収集資料を活用している。・館外の学芸員や専門家との交流・情報交換、共同開催の研究会を進めるとともに、様々な大会の準備協議への協力を行っている。・歴史・美術・保存各分野の学芸員が、それぞれの専門分野に応じた調査研究活動を実施している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示・講座・講演等の中止があったが、SNS や YouTube などの媒体を用いて研究成果の発表を行っている。

要求水準－展示・公開

収蔵資料等による展示活動及び関連事業により、歴史や文化に対する関心を深める

評価項目

- (1) 山内家資料を核として常設展、企画展を開催し、年間 10 万人以上の観覧者を目指す
- (2) 歴史や文化に対する関心を高めるとともに、公開承認施設の承認に必要な実績を重ねるため、他機関が所蔵する国宝・重要文化財等の公開に取り組む
- (3) ワークシートやデジタル機器類を用いた展示解説、関連行事等を企画展ごとに2件を目安に実施し、来館者の理解が深まる取組を充実させる

状況説明

- (1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4月10日～5月10日に臨時休館したほか、館外資料借用を主とする企画展の開催を4～12月の間見送った。しかし臨時・年末休館以外の期間は感染予防対策に十分配慮しながら休館日なく展示公開を行った。企画展休止期間中は、総合展示に特集テーマを設けて内容の充実を図り、年間 27,756 人の観覧者を得た。

ア 企画展

「山内家のおひなさま ～ミニ特集・嫁入り本～」

「知られざる城博コレクション ～寄贈・寄託資料の世界～」

「よみがえる山内家資料の美と歴史 ～伝統の技がなす文化財修理の世界～」

※「おいしい土佐藩」「地域展 仁淀川の人々」は令和3年度に延期、「福を呼ぶ城博のお正月」「山内家のおひなさま」は中止とした。

イ 総合展示特集テーマ

総合1(土佐藩の歴史):「参勤交代」「災厄の歴史」「偉人の横顔」「大名家の年賀状」「土佐の祭礼」

総合2(江戸時代の美術と文化):「面頬」「能装束」「秋のモチーフ」「末広がりでおめでたく」「発見 つかめ」

- (2) 館蔵の重要文化財「長宗我部地検帳」を展示公開したほか、高知県指定文化財「森田久右衛門江戸日記」高知市指定文化財「万葉集古義」を展示し、指定文化財が常時展示室で見られる体制を実現した。

また、企画展「よみがえる山内家資料の美と歴史」ではオーテピアや東京大学史料編纂所など、県内外の他機関からも資料を借りて展示した。

- (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から映像コーナーのヘッドフォン使用やタブレット機器の貸し出し中止、ハンズオンコーナーやワークシート用筆記用具の撤去などの対応を余儀なくされたものの、可能な限り音声ガイドや映像コンテンツ等の充実をはかった。また常設展示室内で使用するワークシートを制作したほか、企画展・特集展に対応した配布資料や行事を準備した。

ア ワークシート

- ・全室共通「はくぶつかんシート」の配布
- ・全室共通「みる・かく・よむかたち」の配布および解説更新
- ・通史展示室「高知城のひみつをてっていぶんせき」の配布
- ・ガイドツアー「月めぐり謎解きミステリーツアー」の配布

イ 印刷配布物

- ・展示資料・音声ガイドリスト(通史・特集/美術・企画展示室用各1枚)
- ・古文書解説シートの配布(通史展示特集1枚)
- ・ひな道具立版古の配布および販売
- ・テーマ展示室解説シート「刀ってすごい」「ゆかいな甲冑」の制作・配布

ウ 企画展関連行事

- ・企画展担当学芸員によるスライドレクチャー(実施1回)

<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員ミニレクチャー(1回、後日 Youtube でも公開) ・記念講座講演会・実演講座(2回) ・SNS を通じた資料紹介(15 回) <p>エ 展示解説</p> <p>感染防止対策に十分注意し、集団・密を避けるため 10 名以下のグループに分かれて解説員による案内対応や団体向けの展示解説に対応した。(4件 135 人)</p> <p>オ デジタル機器類を用いた展示解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通史・美術・企画展各展に対応した音声ガイド(日・英・中(簡・繁)・韓・タイ・土佐弁)の運用 ・企画展ごとに日本語音声ガイドを追加更新 ・夏休み子ども対応「やまびよんまつり」音声ガイドの制作 ・企画展と連携して修理技術の記録映像「美術工芸品を未来に伝える」(2番組)を上映 ・3階ロビーでの高知城解説・クイズコンテンツの運用

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・山内家資料を核とする常設展に加え、企画展では館外からの借用した資料も展示するなど、魅力的な展示づくりを実施した。 ・昨年度から継続して、指定品公開に適した展示室環境を整備し、公開承認施設の要件である重要文化財の公開を行ったことは評価できる。 ・子どもから大人、外国人を含めた幅広い来館者に対応できるよう各種コンテンツを整備・導入し、関連行事を展開するなど、来館者の理解を深める取り組みを行った。

評価項目

- (1) 幅広い年代が参加できる歴史や文化に親しむ講座や行事を企画し、講座等の種類として年間で6件以上実施する
- (2) 子どもたちが歴史や文化に触れる機会を充実させるため、教材研究への協力、出前授業、校外学習等を通じて初等教育、中等教育との連携を強化し、年間で10回以上の児童生徒と関わる事業を実現する
- (3) 博物館実習生やインターンシップの受入を行うなど、高等教育機関との連携を深めることにより、次世代の担い手の育成を支援する

状況説明

(1)教育普及活動として企画・行事・講演を実施した。

ア 講座・催し物等の開催

・城博講座と題し、博物館の所蔵資料や学芸員の専門性、調査研究の成果等をいかした各種講座を開催する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とした。古文書講座については、対面式の講座に代わり、通信制で行った。

「古文書講座(通信)」(96名)

※城博講座;歴史講座、古文書講座、美術工芸講座、高野切講座、日本の文化講座、保存修復講座、歴史資料保存講習会

イ 小中学生を対象に、体験を交えながら日本や土佐の歴史、文化等について学ぶことができる講座を開催した。

「博物館バックヤードツアー」(11月・2回/計14名)、「高知城なぞときツアー！」(2月/13名)

※例年開催している「みる・きく・さわる」、「夏休み工作教室」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。

※新型コロナウイルスの感染拡大を受け、自宅でも楽しく学べるように、ホームページで博物館の展示室を作るクラフトペーパーや消しゴムスタンプ等の工作を紹介した。

ウ 外国人を対象とした講座「Japanese Cultural Experience」は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。

エ 季節折々に伝統音楽等を通して、日本や土佐の歴史、伝統文化に親しんでもらうための催事を開催した。

「お月見の会」(10月/29名)

※例年開催している「梅漬けの会」「お正月の会」は開催を予定していたものの、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。

オ 来館者増が見込まれる夏休みに、過密を防ぎながら展示を楽しんでもらうために、子ども向けのクイズラリーを開催した。

「博物館クイズラリー」(8月夏休み/計238名)

カ 体験道具類の整備・補充

博物館3階展望ロビーの体験コーナーは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため休止とした。この間、破損した道具類の修理、クリーニング、補充等の整備を実施した。

(2)教材研究への協力、出前授業、校外学習を通じ、児童生徒と関わる事業を実施

ア 教育委員会との連携・協力

・県教育委員会や教育センター等と連携・協力のあり方について意見交換を行った。

イ 教員の研修会への協力

・教育センターの研修会や教員の研究会等で、博物館の活用ならびに当館の所蔵資料を活かした郷土の歴史学習についての講義を行った。

教科研究センター講座 特別講座①(9月/6名)
教科研究センター講座 特別講座②(12月/7名)
高知県高等学校教育研究会 歴史部会研究会(2月/7名)

ウ 学校関係者向け博物館利用案内広報の充実

- ・教員向け博物館利用案内パンフレット(改訂版)を県内の全学校に配布
- ・博物館のホームページ内に、学校向けのページを設置

エ 学校見学の受け入れ・出前授業

- ・博物館へ見学に来た学校については、担当教員と事前打ち合わせを行い、見学前のガイダンスや展示解説、体験型学習等の対応を行った。

小学校(49校/2,011名)、中学校(24校/1,414名)、高等学校(14校/334名)、特別支援学校(4校/76名)=延べ91校、3,835名

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により見学中止となった学校は、42校 2,694名。

(小学校16校 1,182名、中学校21校 1,313名、高等学校3校 163名、特別支援学校2校 36名)

- ・様々な理由から博物館への来館が難しい学校については、博物館が学校へ出向く出前授業を実施した。

小学校(6校/50名)、高等学校(4校/400名)=延べ10校、450名

オ 校外学習への協力、授業作りへの協力

- ・学校のフィールドワーク学習への協力として、高知城や城下町等の現地解説を行った。

高知城案内(10校)、城下町案内(2校)、その他(1校)

- ・学校からの問い合わせに対して、授業に活用できる関連資料の提供等を行った。

カ 教材資料の貸し出し、教材シートの提供

- ・学校教育の様々な場面で活用してもらえるように教材資料を用意し、その貸出しを行った。

18校(小学校7校、中学校9校、高等学校1校、特別支援学校1校)

- ・博物館の周辺にある高知城や城下町のフィールドワークに役立ててもらうことを目的に、教材シートの提供を行った。

51校(小学校30校、中学校17校、高等学校2校、特別支援学校2校)

キ スクール・ミュージアムバス事業(学校招待バス事業)

- ・学校が来館する際のバスの費用を博物館側が一部補助する事業は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とした。

ク 児童クラブへの学習協力

小学校の児童クラブへの出前講座を実施し、子どもたちの歴史・伝統文化の学習への協力を行った。

出前講座(1件/14名)

(3) 高等教育機関との連携

ア 職場体験学習(キャリア教育)への協力

- ・学校がキャリア教育の一環で実施している職場体験やインターンシップの受け入れを行った。日本の歴史や文化に興味がある生徒や、博物館の業務について知りたい生徒を対象に、様々な博物館業務の体験を行った他、職業インタビューへの協力を行った。

職場体験(中学校1校/8名) 職業インタビュー(中学校1校/1名、高等学校1校/1名)

※職場体験を予定していたものの、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止となったのは4校(いずれも中学校)

インターンシップの受け入れ(大学1校/1名)

イ 博物館実習生の受け入れ

- ・博物館実習生の受け入れを行い、博物館における事業と運営の概要説明、保存・調査・展示・教育普及・地域連携・広報の実習を行った。大学生1名(8日間)

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの講座・催事が中止となったが、創意工夫しながら可能な限り開催に努めたことは評価できる。 ・教員研修会への協力や校外学習への協力、出前授業など、様々な機会に学校が博物館を利活用できるように努め、また教員への周知も積極的に行うなど、学校の利用に供したことが認められる。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年より受け入れ数は減少したものの、インターシップや博物館実習生を積極的に受け入れ、博物館の業務について実習を行う機会を通して、次世代の育成を支援することができた。

要求水準—地域振興、観光振興

地域振興、観光振興を視野に入れた事業展開を行う

評価項目

- (1) 歴史文化情報の提供や職員の派遣による地域の文化活動への協力により、県内各地の歴史や文化による交流を支援する
- (2) 地域の歴史・文化をテーマとした展示及び関連行事の準備を進め、5年間のうちに開催するほか、観光客の受入体制の充実を図り、県内外の文化施設等とも連携して県内各地への人の流れを生むような情報提供に努める
- (3) 周辺文化施設及び高知市中心部の諸団体と協力し、連携企画の実施、新たな行事の創出の提案等、博物館周辺エリアにおいて歴史や文化を切り口とした観光資源の充実に努め、回遊人口の拡大を目指す

状況説明

(1) 歴史文化情報の提供

ア 歴史文化情報の提供

- ・高知県内1,000カ所以上に及ぶ江戸時代の村単位で、地域の歴史文化情報を閲覧できる「小村データ」を閲覧室において通年で公開した。
- ・高知県情報コーナーと城下町情報コーナーにおいて、県内の文化施設情報をはじめ、各地域の歴史・文化・観光に関する情報を発信した。

イ 地域の歴史文化活動への協力

- ・学習会等への講師派遣や地域における催事への協力等を行っている。令和2年度は、四万十市、四万十町、高知市の地域団体や行政が主催の学習会や資料調査などに職員を派遣し、地域の歴史や資料の調査方法に関する解説等を行った。(12回・延べ151名)

ウ 地域の歴史文化の紹介・普及

- ・土佐の材木の歴史や魅力を紹介することを目的に、高知県木材普及推進協会と連携し、5月のゴールデンウィーク期間中に土佐材を使った工作教室や体験コーナーを実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- ・土佐茶の文化に親しんでもらうことを目的に、県内の茶生産事業者と連携し、5月のゴールデンウィーク期間中に「土佐茶のふるまい」と題した催事を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
- ・地域の歴史を現地で紹介する「地域散策会」を開催している。令和2年度は、開館4周年記念行事の一環として「城下町散策会—下町を歩く—」と題したまちあるき企画を実施した。(16名)

エ 地域連携事業の周知広報

- ・ホームページ内に地域関係者に向けた「地域連携」事業の紹介ページを設けており、適宜更新しながら地域関係の活動の情報を発信した。
- ・地域関係の事業内容を紹介するパンフレット『地域の歴史と文化の？に高知城博が答えます！』を館内外で配布した。

(2) 地域の歴史・文化をテーマとした事業

ア 地域資料への調査協力

- ・郷土資料館所蔵資料調査(馬路村)、個人等からの資料相談対応(4件)、戦争関係調査(旧満州引揚者への聞き取り)を行った。
- ・高知大学の学芸員資格課程との連携事業の一環として、高知市の土佐神社所蔵資料の調査を例年実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学生との現地での調査は中止し、館内においてデータ入力作業を行った。

イ 地域歴史文化の調査研究

<ul style="list-style-type: none"> ・県内各市町村を会場に、学芸員が地域の歴史を紹介する「出張講座」を例年開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。 ・地域の歴史文化の調査研究活動として、『地域記録集 土佐の村々』というパンフレットを継続して発行している。令和2年度は、第4号作成のため、対象とした芸西村久重地区等で調査を実施した。(7回)2月に記録集第4号を発行し、当館と芸西村文化資料館で無料配布を開始した。 <p>ウ 地域の歴史文化展の開催準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展示室にて、県内各地の歴史文化に関する企画展の開催を予定している。企画展は仁淀川流域をテーマとして予定しており、令和2年度は流域市町村において開催準備調査等を実施した。(8回)また、学校の歴史を紹介する企画展の開催にむけて、県内の休廃校関係資料の調査等を実施した。(13回) <p>エ 連携体制の維持・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内市町村との連携・協力を体制的に進めるため、地域振興・観光振興関係部署等との意見交換を行ったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年より回数は減少した。 ・江戸時代を主要なテーマとして活動する歴史系博物館による連携組織「土佐藩・土居関係資料所蔵博物館連携協定」の事務局をつとめた。 <p>(3)周辺文化施設及び高知市中心部との連携</p> <p>ア 高知市中心部との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知市中心部の関係者との協議や意見交換を行ったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年より回数は減少した。 ・高知市中心部の情報発信としては、当館1階の城下町情報コーナーで、城下町の歴史や見所、高知城や商店街で行われる催事等を、映像や印刷物により県民や観光客に対して発信した。 ・高知城や城下町の歴史文化を紹介する子ども向け印刷物「高知城探検パンフレット」、「城下町探検パンフレット」の増刷・配布を行った。 ・高知市中心部における催事的なものとしては、商店街及び高知商工会議所が主催の「得する街のゼミナール(まちゼミ)」に参加予定だったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。 ・当館実習室にて日曜市で出会える食材を使った「日曜市料理教室」を例年通り開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。 ・高知市中心部の文化施設の連携組織「高知お城下文化施設の会(通称:お城下ネット)」の事務局をつとめた。また同会の連携催事として「第4回お城下文化の日」を開催し、各施設にてワークショップや講演会等の特別企画を行った。(催事全体1,408名、当館関係207名)これに加え、文化施設情報や中心部マップをまとめた「令和3年度お城下文化手帳」を編集した。 ・県内の民俗行事を高知市中心部で実演紹介する毎年恒例の催事「お城下で見る土佐国」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ職員を派遣し、講座や、地域での活動の協力、地域の歴史文化の紹介や普及活動など歴史や文化による交流促進につながる活動を展開したと認められる。 ・県内市町村の地域振興・観光振興関係部署等との連携、文化施設等との連携など、連携体制のとりまとめ役を担い、新型コロナウイルス感染症の影響により回数は減少したものの、連携組織による講座やイベント活動を展開したと認められる。 ・高知市中心部の諸団体との継続的な交流により、情報発信や催事等の開催を実施した。

評価項目

広報計画に基づき、館のホームページや広報誌、チラシその他メディア等も駆使した効果的な情報発信を行い、ホームページアクセス数やアンケート調査等を参考に、常に広報効果の検証を行う

状況説明

ア 自主媒体等による情報発信

- ・パンフレットや年間スケジュールリーフレット等で博物館の見どころや企画展等の開催情報を随時周知したほか、ホームページを活用して、企画展や講座・催し物等の開催情報を随時発信した。
- ・館の情報を包括的に発信する定期情報誌を発行した。
- ・SNS(Facebook、twitter、Instagram)で、展示や講座・催し物等の開催情報のほか、山内家資料の魅力や展示のみどころ、博物館の活動紹介など細やかなPR、情報発信を行った。
- ・建物外構に展示や講座・催し物に関する案内を掲出し、通行者等への周知を行った。
- ・来館者数統計や記述式来館者アンケート調査、タブレットを活用したアンケート調査をもとに観覧者層の内訳や動向を鑑みながら、効果的な広報の取り組みの見直しを随時行っている。またホームページのアクセス解析による効果測定をもとに、WEBを活用した情報発信も随時検討、実施している。

イ マスメディア等を活用した広報

- ・宣伝広報業務の一部を専門事業者に通年で委託し、山内家資料の認知向上を目的としたPRポスター・チラシの制作、宣伝掲示物の設置、CM・広告等を実施したほか、企画展のテレビCM等を実施した。
- ・マスメディアに向けて、企画展や催しに合わせてプレスリリースを実施し、メディアへの露出拡大を図った。

ウ 広報・誘客イベントの開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のために誘客イベントは概ね中止したが、開館4周年記念イベントとして以下のような企画を実施した。

- ・記念講座「花押と印章～古文書における署名の作法～」(49人)
- ・土佐藩主山内家墓所特別公開(34人)
- ・高知城なぞときツアー(13人)
- ・学芸員ミニレクチャー(15人。後日、動画のWEB公開も実施)
- ・城下町散策会(16人。後日、動画のWEB公開も実施)
- ・上記の他、季節等にあわせた誘客を目的に特別講座として「門松づくりの実演会」を開催した。(15人)

エ 観光客や団体客の誘致

- ・団体ツアー客をはじめとした観光客誘致のために、県観光コンベンション協会主催の観光説明会へ随時参加しPRを行っているが、新型コロナウイルスの影響により中止となり参加できなかったが、当館が契約している旅行会社を中心に旅行商品造成への協力を行った。

オ 新型コロナウイルス感染拡大防止により中止した事業の代替サービス

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止により中止した企画展や講座・行事等の代替サービスとして、SNSや動画サイト等のオンラインを活用したPRおよび代替サービスを実施した。

カ その他

- ・高知城来場者へのPRを目的に、高知城敷地内に情報看板を設置して誘客に取り組んでいる。
- ・館のマスコットキャラクター着ぐるみの活用はイベントの中止に伴い実施できなかったが、各種広報媒体に画像を使用してPRに活用した。

評価	理由
B	<p>・パンフレットやリーフレットをはじめ、HPやSNSなどを活用した様々な広報活動、また、新型コロナウイルス感染拡大防止により中止した企画展等については、オンラインを活用した代替サービスの実施など、感染拡大状況に応じた広報・誘客に取り組んでいるが、年間観覧者数は減少傾向が続いている。今後の誘客に向けて、より効果的な広報活動の取り組みと工夫が必要である。</p>

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) アンケート等により入館者からの意見を積極的に収集し、清掃や警備、設備管理その他館内外の利用環境に関する効果的な改善策を実行し、利用環境の向上に努める

状況説明

・館内の数カ所に設置したアンケートボックスとタブレットによりアンケートを収集している。収集したアンケートは定期的集計し、職員全体に内容を周知させている。また、対応が必要と判断した内容については館内で協議し、利用環境の向上に努めた。

評価	理由
B	・アンケートによる来館者意見を館の運営に反映させるなどの取り組みが認められる。

評価項目

(2) 安全な利用環境を保ちながら、光熱水費を含む維持管理経費については年度ごとに分析を行い、経費削減に取り組む

状況説明

・光熱水費についてはデータを蓄積し、省エネに努めている。
・その他、各設備の保守管理については県と協議の上で入札や随意契約を行い、最適な業者との契約を進めている。

評価	理由
B	・月ごとのデータを蓄積していき、分析するなど、適正な維持管理に努めている。

評価項目

(3) 観覧者、講座等利用者確保のほか、貸出施設についても利用を促進することで収入を確保し、管理費や事業費の削減と合わせ収支のバランスを維持する

状況説明

広報活動等により、展示や講座の日程・内容等を発信し、観覧者・利用者の確保に努めたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため展示・講座の中止や延期が相次ぎ、観覧者数の実績は27,756人だった。貸出施設についても、HPなどで情報を発信しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止による利用の減少が見られた。また、講座等利用者については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くを中止とし、利用者数は減少した。

評価	理由
B	・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、収支バランスの維持が困難な状況が続いているが、様々な創意工夫を行い利用を促進する取り組みは認められる。企画や広報活動の工夫による、より効果的な誘客対策を期待する。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に資料の寄贈・寄託を受けるなど、歴史資料保存に貢献していると認められる。 ・各学芸員が実施した調査研究活動の成果を、展示、講座等様々な形で公開しており、充実した活動が見受けられる。新型コロナウイルス感染拡大により中止になった企画展等が多数あったが、SNS や動画サイト等のオンラインを活用した代替サービスを実施するなど、創意工夫を行っている。 ・ワークシートやデジタル機器、企画展に関連した行事を通して観覧者の理解が深まる工夫を行っていることは評価できる。 ・博物館利用案内パンフレットを教育機関へ周知し、学校見学や出前授業等の実施、博物館実習生および職場体験・インターンシップの受入れなど、充実した教育普及活動が見受けられる。 ・県内各地の歴史文化の交流を支援するため、講師派遣や広報活動等を多数実施。また地域資料の保存調査の協力や、研究支援にも職員を派遣している。 ・高知市中心部の諸団体等と連携し、周遊人口の増加につながる貢献をしている。 <p>以上のことから、概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

評価基準

「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。

「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。

「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。

「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。